



令和2年8月25日発行 中等新報第68号
新潟県立村上中等教育学校長 吉井 裕也

13期生進路講話② ～ 主体的に情報を選択すること ～



東 琳加さん（新潟大学医学部医学科進学）

東 琳加さんの場合

- ・私は新潟大学の医学部医学科を「地域枠」という推薦方法で受験し、合格することができました。これは、センター試験の結果が基準に達していることが条件の推薦入試です。模試の結果は、ずっとD判定でした。本番1か月前まで、センター合計点で80点足りなかったのです。本番では、各科目の間の休憩時間（約1時間）に頭を切り換えてリラックスすることに努めました。試験中は全科目集中できたおかげで、今までで最高の得点を取ることができました。ただ、センター試験後は完全に燃え尽きてしまいましたが（笑）。
- ・勉強法は、人まねではうまくいきません。あれこれやってみて自分に合った方法を見つけてください。私は隙間時間の活用を心がけました。平日の場合、朝7時30分に登校し1時間。放課後16時～18時まで2時間。合計3時間は学校でやりました。家では2時間程度だったと思います。SNSは集中力を妨げます。私はアプリを消したりして、環境を整えました。

・大学進学後に何をやりたいのか。志望動機をはっきりさせることでモチベーションが上がります。

佐藤太陽さんの場合

- ・全国模試の志望校判定は気になるものですが、いったいどんな仕組みになっているのでしょうか。
- ・模試は得点分布がいびつで、いわゆる正規分布にはなっていません。2020年のセンター試験結果をみても、例えば「地理」ではたった5点（1問相当）で偏差値が4も違ってきます。これは、難易度ランクが1つ変わってしまうくらいの差です。つまり、偏差値はあくまでも目安に過ぎないということなのです。
- ・偏差値や志望校判定ではなくて、解けなかった問題そのものに注目してください。（以上、パワーポで説明）
- ・私は京都大学の数学の過去問がなかなか解けなかったのですが、個別学力試験1か月前に、志望校が同じ友人の使っていた数学の参考書を借りたところ、とても分かりやすかった。それを繰り返しやることで、本番に必要な解法の技術が身に付き、合格できたと思っています。
- ・（以下は5年生対象の講話から）京都大学については、初めはそれほど本気ではなかったけれど、「赤本」の過去問を解いたらめっちゃくちゃおもしろかった。特に、数学と物理。出題のおもしろさで京都に決めました。（次号へ続く）



佐藤太陽さん（京都大学理学部理学科進学）



新潟県立村上中等教育学校

〒958-0031 村上市学校町6番8号 TEL.0254-52-5101 FAX.0254-53-6773
HPアドレス <http://www.murakami-ss.nein.ed.jp>